**【実証授業の考察】**

**1　プログラミング体験を取り入れた活動の工夫について**

| | |
|---|---|
| 教科／単元 | 総合的な学習の時間／ **銀水花いっぱい絆プロジェクト** |
| 位置付け | 展開場面の探究的な活動として |
| 思考ツール | フローチャート（内容の書き出し・手順の作成・分岐なし） |
| 準備物 | 学習ノート，ホワイトボード，カード，単元計画表，新聞作りの手順（国語科），電子黒板 |
| 目的 | ・限られた時間内で「銀水の宝」がよく伝わる発表を行うために，伝える内容，発信方法，発表会までの手順について話し合い，**テーマごとに実践可能なグループ計画書を作ること**ができるようにする。 |
| 内容 | ・自分たちにできるか・「銀水の宝」がよく伝わるかという観点から，発表までの手順をホワイトボードを活用してフローチャートに表させる。それをもとにグループ間で交流しながら自分たちの発信方法に合わせた実践可能な計画書に改善させる活動を通して，意欲的に課題解決を図る。 |
| 方法<br>（形態） | ・発表までの手順をカードに書き出し，ホワイトボードに手順通りに並べる。（グループ）<br>・他グループが作成している活動内容や手順を交流する。（全体）<br>・自分たちにできるか・「銀水の宝」がよく伝わるかという観点から手順を見直し，改善する。（グループ） |

手順をカードに書き出す子ども

計画書を改善する子ども

**成果**

○発信方法ごとに伝える内容の例文を提示したことによって，伝える内容のイメージを持たせることができた。

○カードを用いたことで，手順の入れ替えの操作がしやすく，順序を意識させる上で有効であった。

○発表までの授業時数や発表制限時間を提示したことで，時間を意識しながら，グループ計画書を作成することができた。

**課題**

●１単位時間内で伝える内容・発信方法・手順までを話し合わせるのには無理があった。

●１つの１つの手順をグループ全員で話し合ってカードに書き出すグループと，個別に書いたものをすりあわせるグループがあり，進行度合いに差が生まれた。

●全てのグループの計画書を比較して，まとめにつなげていくことが難しかった。

**改善策**

◇前時までに伝える内容を決めておき，本時では発信方法と手順に焦点化する。

◇つくる段階のはじめに１単位時間で区切ったグループ計画書のモデルを提示し，計画書のイメージをつかませ，各自が自分の考えをカードに書いた後でグループで話し合わせる。

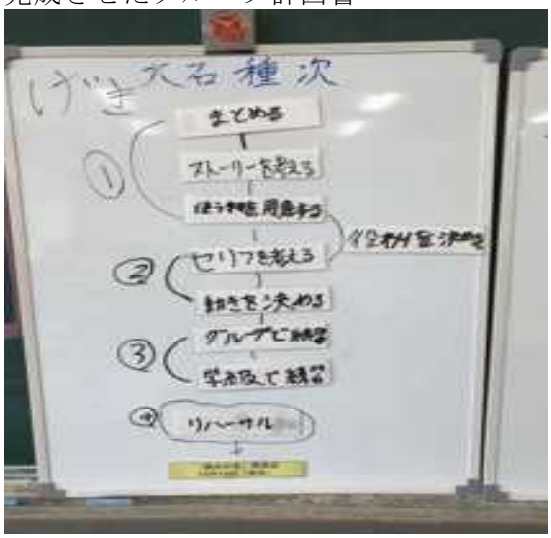
◇発信方法が違う２つのグループ計画書を比較させ，発信方法が違うと手順が違うことに気づかせ，まとめにつなげていく。

## 2　めざす子どもの姿から

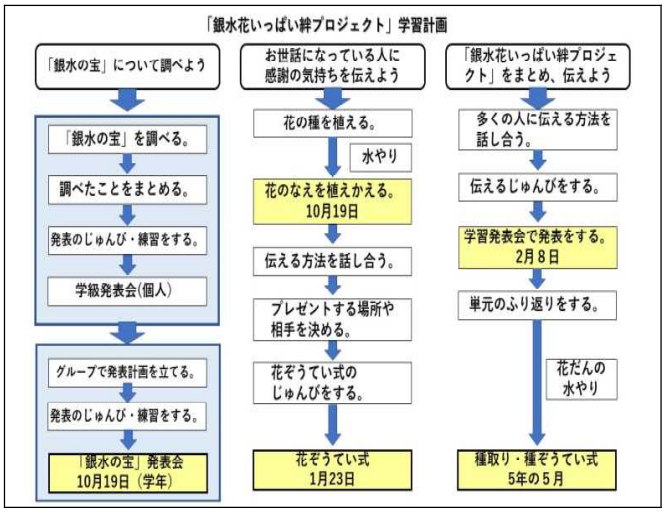
| 【目的性】 | 【試行錯誤性】 | 【創造性】 |
|---|---|---|
| 導入段階で，学習計画を基に学習のゴールを確認し，これまでの学習を振り返り，「銀水の宝」のよさ・いろいろな発信方法・話し合いの必要性を確認させ，銀水の宝のよさが伝わるような発表会にしたいという目的意識を高めることができた。 | 「銀水の宝発表会」までの手順について，カードを操作しながら考えさせたことで，自分たちにできるか・「銀水の宝」がよく伝わるかの観点から，グループで話し合い，何度もカードを操作しながら，効率的な手順を考えていた。 | 自分たちでグループ計画書を完成させ，比較させたことで発信方法が違うと手順が違うことに気付くことができた。ふり返りでは発表会までの見通しを持つことができ，学習意欲を高める姿が見られた。 |
| | | |

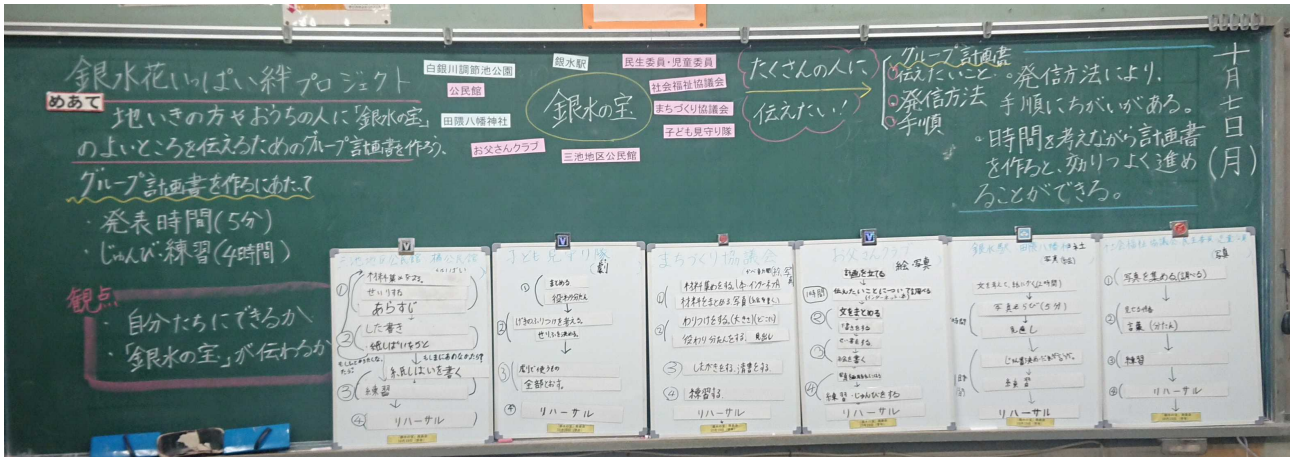
## 3　資料

○完成させたグループ計画書



○掲示物




○本時板書